

まちづくりを考える

町政懇談会



鞍手町総合福祉センターでの町政懇談会の様子

新たなまちづくりへ

町政懇談会の開催

町では、平成27年度末に第5次鞍手町総合計画、鞍手町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第6次鞍手町行政改革プランの新たな計画を策定し、平成28年度から「新しいまちづくり」をスタートさせました。

これらの計画に基づく新たなまちづくりについて、町民の皆さんと情報を共有し、一緒に考える場にしよつと、古月小学校（6月19日）、総合福祉センター（6月26日）、中央公民館（7月3日）で町政懇談会を行いました。

これまでの取り組み

第4次総合計画の検証

これまでの取り組みのうち第4次総合計画及び第5次行政改革に掲げた213項目（うち、行政改革27項目）の主な事務事業について報告を行いました。

●鞍手インターチェンジ関連事業

平成23年2月に開通した鞍手インターチェンジは、地域活性化インフラの重要な出入口となっているほか、通勤やレジャーなどの貴重なアクセスポイントとなっており、年々利用台数も増え、平成27年度では、上り下り合わせ1日約5800台の流入・流出となっています。

●遠賀川渡架橋

現在の名称を「北九鞍手夢大橋」とし、平成27年3月に開通し、鞍手町と北九州市を結ぶ主要幹線道路として交通アクセスの利便性が向上しています。

●地域公共交通体系の整備

コミュニティバスとして町内を巡回している「すまいるバス」は、平成23年度から運行を開始しており、現在に至るまで、実証運行を繰り返し、路線の変更や時刻表の見直しなどを随時行いながら住民の皆さんの利便性向上に努めています。

●小中学校の再編

平成23年度から平成24年度までに計画を策定し、住民説明会などを行いながら、中学校の統合を先行して行い、平成27年4月に鞍手中学校として開校しました。現在2年目を迎え、全国的にも類を見ない学校として注目をされています。

●町立病院の経営形態

くらで病院は、平成23年度に経営形態について専門的な見地から意見を聴取することを目的に、鞍手町立病院経営検討委員会を設置し、審議・検討をしていただき、平成25年4月1日より「地方独立行政法人くらで病院」として運営を開始し、健全な財政運営を行っています。また、現在は、くらで病院整備基本構想検討委員会を設置し、移転・新築を前提とした病院の在り方について協議・検討を行っています。

●町有財産の効率的活用と企業誘致

平成25年度から平成26年度にかけて、旧鞍手北中学校東側の「町有地」の売却により、新たな企業が4社進出され、雇用の増加や産業の活性化につながっています。

●定住促進奨励金

定住支援策として、「定住促進奨励金の交付制度」を設け、平成25年度から平成34年度間に固定資産税を新たに課税された人に対し、この固定資産税に相当する金額を交付しています。年々、制度が浸透し、申請件数も増え、徐々に効果が表れている現状です。平成26年度には、転入転出の差し引いた人数が21人のプラスに転じたことから、本町を移住定住先として選択する人が増加しているものと分析しています。

そのほか、子育て分野や福祉・保健関係、住民の利便性の向上など、様々な分野の施策に取り組んできました。

*子育て関係

- ①乳幼児等医療費支給の拡大
- ②学6年生まで医療費が無料（中学生は入院費のみ無料）
- ③風しん予防接種費用の無料化（1回、上限1万円）
- ④私立幼稚園就園補助金の導入
- ④病児病後児保育の実施

*福祉・保健関係

- ①高齢者肺炎球菌予防接種費用の助成
- ②孤独死防止のための民間事業者を活用した見守り活動
- ③安心・安全カートの配布

*利便性の向上

- ①町税等のコンビニ収納の開始

これからの取り組み

これまでの取り組みを踏まえ、平成27年度末に策定した新たな計画について概要の説明を行いました。

●第5次総合計画

町の最上位計画。基本構想の計画期間は、平成28年度から9年間。前期基本計画は平成28年度から4年間

●まち・ひと・しごと創生総合戦略

町の最上位計画である総合計画の施策分野から、人口減少問題に立ち向かうための施策分野を抽出した重点的に取り組むための計画。計画期間は、平成27年度からの5年間

●第6次行財政改革

財政面での経費節減と効率性とともに、行政サービスの質を向上させることを目的として行われるもの。計画期間は平成28年度からの4年間

※これらの新たな計画については、広報くらて臨時号(2016年5月25日発行)で、詳しくお知らせしています。



これまでの取り組み、今後の取り組みについての報告終了後に質疑応答を行いました。ここでは、その一部を抜粋して紹介します。

Q 策定された計画には多くの内容が盛り込まれているが、何を最優先に考えているのか。

A まず一番最初にやらなくてはならないのは、医療体制を整えることと考えています。病院というのは、町の中核となり、町民の安全・安心を担保するものとなります。くらて病院については、耐震化されておらず、早急な対策が必要です。

Q 行財政改革の面ですが、町全体でペーパーレス化ということは考えていないのでしょうか。

A 今年の10月に庁舎内電算システムの入れ替えを行いますので、役場内での会議においては、タブレット端末を利用して電子会議を行う計画をしています。

また、住民の皆さんへの情報の伝達について、現在は、広報紙等の配布により行っています。また、ホームページやフェイスブックでの情報発信も行うのですが、パソコン・スマートフォンに不慣れな方には難しいところがありますので、今しばらくは紙媒体での情報発信を継続しようと考えています。

Q 小さな子を持つ親の多くは、子どもが小学校に入る前に家を決めて、その後は引っ越さずに過ごしたいと考えている。「あの小学校の校区だから、ここに家を建てる」という話をよく聞くので、親が子どもを入学させたいと思うような小学校を充実させれば、若い世代の定住者が増えるのでは。

A 本町は、剣南小学校以外の小学校はいずれも単学級で、10名前後や4名の学級もあります。子どもたちと向き合っていく細かい授業ができ、子どもと教師の信頼関係が築け、児童一人ひとりにあった個々の授業展開ができる、これが本町の小学校の特色ではないかと

思います。学校は校区によって決まりますので、将来的には一部自由化を考えています。

そのほかにもこのような意見がありました



●全国版のニュースで、旧鞍手南中学校の跡地を利用して「くらて学園」が取り上げられているのを見た。このような明るいイメージを発信し続けて欲しい。

●家を建てる市町村を決めるときに、比較対象とされるものには、通勤、生活環境、教育等があるが、私の子どもは子育て支援を重視して鞍手町に家を建てた。若い世代を町に呼び込むために、今後も子育て支援に力を入れ続けて欲しい。

各会場ではそのほかにも、ご意見・質問等がありました。紙面の都合上掲載することができませんのでご了承ください。懇談会に出席していただいた皆さんのご意見等は今後の町政の参考とさせていただきます。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



「新たな力で躍動するまち くらて」

の実現のため

みなさんのご協力をお願いします



これまでの取り組み等を報告する徳島町長